

〔Cancer, 48, 140 (1981)〕

**Gonadotropin and Alkaline Phosphatase Producing Occult Gastric Carcinoma with Widespread Metastasis of Generalized Bone**

TOSHIKAZU UCHIDA\*, TOSHIO SHIKATA\*, SHIN-ICHI SIMIZU\*,  
YUKIE TAKIMOTO\*, SHIRO IINO\*\*, HIROSHI SUZUKI\*\*,  
TOSHITSUGU ODA\*\*, KAZUYUKI HIRANO, MAMORU SUGIURA

全身骨への転移を伴った胃癌の産生するゴナドトロピンとアルカリフォスファターゼ

内田俊和\*, 志方俊夫\*, 清水伸一\*, 滝本到得\*, 飯野四郎\*\*,  
鈴木 宏\*\*, 織田敏次\*\*, 平野和行, 杉浦 衛

57才男性に全身骨へ広範囲な転移をともなった原発性胃癌の症例について生化学的な検討を行なった。血清中の絨毛性ゴナドトロピン (hcG), 癌胎児性抗原 (CEA) およびアルカリフォスファターゼ (AlPase) が高値を示した。電顕的所見より, 胃原発性腺癌巣のトロホプラストには顕著な変化は認められなかったが, 多数の *signet-ring carcinoma cell* の混在が認められた。癌細胞中の hcG, 小腸および胎盤様 AlPase を immunoperoxidase 間接染色法によって検討した結果, hcG は, 癌細胞の cytoplasm に, 小腸様 AlPase は microvilli および cytoplasm に, 胎盤様 AlPase は cytoplasm に, それぞれその局在が認められ, 本症例は非常に興味深いものであった。

\* 日本大学医学部, \*\* 東京大学医学部 酵素剤の研究 第193報

〔Cancer, 48, 1455 (1981)〕

**Immunoperoxidase Study of Alkaline Phosphatase in Testicular Tumor**

TOSHIKAZU UCHIDA\*, TOSHIHIKO SHIMODA\*, HISAHIRO MIYATA\*,  
TOSHIO SHIKATA\*, SHIRO IINO\*\*, HIROSHI SUZUKI\*\*,  
TOSHITSUGU ODA\*\*, KAZUYUKI HIRANO, MAMORU SUGIURA

睾丸癌におけるアルカリフォスファターゼのイムノペルオキシダーゼによる研究

内田俊和\*, 下田敏彦\*, 宮田久裕\*, 志方俊夫\*, 飯野四郎\*\*,  
鈴木 宏\*\*, 織田敏次\*\*, 平野和行, 杉浦 衛

胎盤性 (Regan) および小腸性アルカリフォスファターゼ (AlPase) の monospecific 抗体を利用し, ヒト睾丸癌における AlPase を immunoperoxidase 間接染色法にて検討した。Regan AlPase は, セミノーマの細胞膜上に, 小腸性 AlPase は, テラトーマの腺部位の上皮細胞に局在した。セミノーマにおける Regan AlPase は, 精子形成細胞が癌化したことにより肝性 AlPase の変化したものと考えられた。Regan AlPase は, セミノーマの新しい腫瘍マーカーであり, その同定は, 胚芽性腫瘍のユニークな生化学的検査法になると考えられた。

\* 日本大学医学部, \*\* 東京大学医学部 酵素剤の研究 第194報